

ラジオ関西「兵庫県保険医協会の聴く医療」に出演

岡本真吾先生が「管理職のメンタルヘルス」について語る



岡本真吾先生(左)とパーソナリティの寺谷一紀さん(右)

ラジオ関西の協会提供番組「兵庫県保険医協会の聴く医療」に3月24日、尼崎支部から岡本真吾先生(むこのそう心の診療所)が出演した。岡本先生は、パーソナリティの寺谷一紀さんとの掛け合いで「管理職のメンタルヘルス」をテーマにわかりやすく解説した。当日の様子は、放送後でも番組ブログや協会ホームページ(<http://www.hhk.jp/topics/2023/1002-090000.php>)からもご覧いただけます。

第595回幹事会だより

3月21日(木) 於: 尼崎市医師会館会議室

○ 尼崎支部の会員数

3/1 現在 医科378人、歯科169人

○ 医療をめぐる情勢と運動対策

4月からの共済普及・組織強化月間に向けた未入会医療機関・病院勤務医対策、今後の支部企画として医療と福祉を考える会、支部総会市民公開企画について討議し、今回の診療報酬改定での医療機関への影響について意見交流した。

○ 4月日程 4月25日(木) 16:00 ~ 尼崎市医師会館会議室

お問い合わせはTel 078-393-1805 沖野・石本まで

支部会員の先生方へ

未入会のお知り合いの先生、ご子弟に入会を是非おすすめください



兵庫県保険医協会第103回評議員会特別講演のご案内



日時: 5月19日(日) 16:00 ~ 会場: 協会会議室

「政治家と裏金問題 - 企業献金のあり方を問う -」

講師: 神戸学院大学 法学部 教授 上脇博之 氏

今回は、政治資金収支報告書チェックの第一人者である神戸学院大学の上脇博之教授をお呼びし、政治とカネについて詳しくお聞きします。2000年以降、4人の首相を輩出し、権勢を誇ってきた安倍派を解散にまで追い込んだ講師による貴重な講演です。お申込み・お問い合わせは、Tel 078-393-1817 まで

兵庫県保険医協会

尼崎支部ニュース

437号

2024年4月15日付

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階 兵庫県保険医協会 尼崎支部
TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

診療報酬改定研究会

診療報酬の大幅引き上げを



左から、講師を務めた小泉民雄支部幹事・綿谷茂樹支部長・長谷川吉昭副支部長

6月からの診療報酬改定を前に、協会は3月下旬から県下各地で改定研究会を開催している。尼崎では、医科改定研究会を3月30日(土)に都ホテル尼崎で開催し、116医療機関から189人が参加した。医科では綿谷茂樹支部長、長谷川吉昭副支部長、小泉民雄支部幹事が講師を務め、改定内容のポイントを解説し、参加者は熱心に内容に耳を傾けた。



参加者から「解説が大変わかりやすい」と好評を得た

研究会の冒頭では綿谷支部長が診療報酬をめぐる情勢について報告。政府は医療費抑制の一方、防衛費増を進めており、感染対策費増、物価高騰など医療機関のコストが増加しているにも関わらず、改定率は全体で▲0.12%であり、基本診療料の大幅引き上げ、診療報酬の不合理是正が必要と訴えた。また10月からの「後発医薬品のある先発医薬品」に対する保険給付割合の引下げは国民皆保険制度の根本的な原則である「平等」を揺るがすものであること、現行保険証の廃止は患者の医療を受ける権利を損ねることなどを解説し、保険証存続を求める請願署名は227筆集まった。参加者は、診療報酬の大幅引き上げ・改定内容の不合理是正を求めて決議を拍手で採択した。歯科改定研究会(4月14日開催)は次号掲載予定。

医療と福祉を考える会「知って得する医療・福祉の役立つ制度」感想文

尼崎支部は2月17日、第104回医療と福祉を考える会「知って得する医療・福祉の役立つ制度」を開催。神戸女子大学客員講師の阿江善春先生が講師をつとめ、会員、医療機関や介護施設スタッフなど24人が参加した。参加者の感想を掲載する。



講師の阿江善春先生

協会作成のパンフレット「保険証廃止の問題点とマイナンバー制度の危険性」を紹介しながら「保険証存続を求める」署名を訴える綿谷支部長(右写真)、働く現場の事例について参加者からたくさん質問が寄せられた(下写真)



(感想文①)

患者視点で福祉を考える

ご講演ありがとうございました。とても勉強になりました。

身体障がい者手帳、特別障がい者手当、言葉・制度は知っているつもりでしたが、徐々にADLが低下している人は確かに取得していない方もいらっしゃいますし、タイミングが合わない(取得時期に入院・入所中)で取得されていない方もいらっしゃいます。

病院から離れてしまうと、誰も言ってくれないし自分から申請しないといけないけど、窓口がわからない、何が当てはまるのか自分でもわからない等、日本人は現状を受け入れて我慢してしまう。「身体と心が追いつめられると暮らしが追いつめられる」そして、助けてと言えない現実のまま受け入れる日本人、どこに相談していいのかわからない制度・窓口(医療:県、介護:市、年金:年金事務所など窓口が違う)

今回は、お医者さまがたくさん講義を聞いてくださっていて、患者視点でとてもうれしく思いました。自分が、精神を追い詰められた時、生活に困るけど餓死するほどじゃない、自分からは言えない状況で、主治医から「特別障がい者手当の診断書、作成しようか?」とか、「精神障がい者手帳取れると思うから申請するなら書いてあげるよ」とか言ってくださるならすごくありがたいと思いました。

特別障がい者手当や障がい者手帳の診断基準が、自分が思っているより緩く、該当するのに申請していない人が多くいらっしゃるだろうなと感じました。

「重症化を防ぐことで医療等の費用が抑えられる」貰える手当(傷病手当・雇用保険・特別

(3面へつづく)

(2面からのつづき)

障がい者手当・障害年金など)の取得を多くして、支払う税金(控除など)を少なくし、在宅で患者様を守っていただけるように自分にできるアナウンスはしていけたらと思います。

【尼崎市・相談員 K】

(感想文②)

制度を正しく理解し適切な活用に繋げる

今回、「知って得する医療・福祉の役立つ制度」について、阿江先生の貴重なご講義を拝聴する機会をいただき、ありがとうございました。普段、患者サポートセンターという部門で患者さんやご家族から色々のご相談を伺う中で、経済的問題に関するご相談は比較的多い現状にあります。日々活用する制度は様々ですが、実務的な内容を講義で学ばせていただける機会は少ないため、今回のご案内を拝見し、知識を増やしたい、自身の理解が間違っていないか確認したいという思いで参加させていただきました。

多くの制度は申請に基づくため、患者さんやご家族が適切に必要な情報を得ることができなければ、経済的問題はそのまま死活問題に関わってくる恐れがあります。よって、見落とししていることはないかいつも慎重に考えながら対応していますが、今回ポイントを押さえて教えていただいたことを踏まえ、今一度制度に対する理解を深め、一人でも多くの患者さんやご家族の安心に繋がるよう活かしていきたいと思えます。

特に詳しく教えていただいた特別障がい者手当については、どの市町村においても受給者数がかかり少ないことに驚きました。月27,980円の手当があれば治療や生活の選択肢を広げられる可能性があるため、早速院内のソーシャルワーカーや同じ部門で協働する看護師と知識を共有させていただきました。

今回、制度を正しく理解し適切な活用に繋げることの大切さを改めて認識致しました。大変勉強になりました。

【尼崎市・MSW H】

第105回 医療と福祉を考える会のご案内 医療・介護にかかわるすべての人に知ってもらいたい 介護ベッド等福祉用具の使い方(仮)

日時: 6月27日(木) 18:00 ~

会場: アマルネス・ガーデン(尼崎市西長洲町2丁目35番1号)

参加費: 無料 お問い合わせはTel 078-393-1805 沖野・石本まで

尼崎社会保障推進協議会 学習会のご案内 介護報酬改定の問題点と狙いとは?

日時: 5月11日(土) 14:00 ~ 16:00

講師: 日下部雅喜氏 佛教大学社会福祉学部非常勤講師・大阪社保協介護保険対策委員長

会場: 尼崎女性センター・トレピエ2階 視聴覚室(阪急武庫之荘駅から徒歩5分)